

パルシステム東京 震災復興支援基金「パル未来花基金」助成活動レポート

震災復興支援基金「パル未来花基金」の助成を受けて、復興支援活動に取り組みました。その取り組みについて、組合員の皆さんにご報告します。

グループ名	シュレー大・雫穿大有志石巻支援を風化させない会
支援対象者・エリア	宮城県・石巻市・気仙沼市、福島県郡山市
企画開催地	宮城県・石巻市・気仙沼市、福島県郡山市、東京都・新宿区
企画名称	東日本大震災からの10年とこれからの私たち
実施期間	2021年4月1日(木)～2022年3月31日(木)

支援活動の目的・内容・感想

(どうしてこの活動をはじめたのか、どのようなことに取り組んだのか、取り組んだ感想など)

東日本大震災は非常に規模の大きな災害でかなり広範囲の地域で非常に多くの被災者がいました。自分たちにできることを支援の手が届きにくいところに、顔の見える関係を作り継続的に被災した方が望むお手伝いを10年間はしていこう、と考え石巻に平成の大合併で編入された雄勝町の24戸の漁村の人たちと関係を作り支援を始めました。がれき撤去から始まり、次第に地場産業である養殖漁業の支援へと移り、稲作の田植えに相当するホタテ養殖の稚貝の養殖いかだへの種付け作業、いかだの浮き、おもりの手入れ、わかめの種付け、廃棄するいかだの処理などを行いました。私たちは主に不登校・ひきこもりを経験した若者が学ぶNPOの大学の学生やOBOGが主なメンバーということもあり、被災地で急増した不登校やその経験者の支援をする団体への支援も始めました。私たちの経験をその団体やシンポジウムなどで共有したり、相談にのったりということです。また、いずれの活動の交流の中で震災の体験も伺いました。関係を築いていくほど、被災経験やその中で思うことで心の奥にしまっていたようなことも話して下さるようになりました。震災10年目は都度つど撮りためた記録の写真や動画を活かし、10年目の記録映像を撮影し、記録映画を製作しました。そして、その映画の上映もしました。

活動の様子(写真など)



気仙沼のフリースクールでの交流



石巻の漁師さんへのインタビューを終えて